

城南家保ニュース Vol.28-10

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



熊本県内で高病原性鳥インフルエンザ発生！

熊本県南関町の採卵鶏養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が発生しました



発生年月日：平成28年12月27日

飼養羽数：約92,000羽

鶏舎数：11棟

（ウインドレス高床式7棟、開放鶏舎4棟）

移動制限(3km)：6農場 146,800羽

搬出制限(3～10km)：19農場 960,020羽

消毒ポイント設置箇所数：最大9か所

なお、発生農場における防疫措置は昨年12月28日に完了し、農場周辺の清浄性確認検査においても異状はありませんでした。今後続発がなければ、1月19日に全ての移動制限が解除される見込みです。

今回、国の疫学調査チームの発生農場における現地調査結果では、**発生鶏舎内でネズミの死体が複数発見され、集糞ベルトの鶏舎外への開口部や、鶏舎側面の壁と基礎部分との隙間**など、小型の野生動物が家きん舎に侵入可能な箇所が複数確認されています。

部位に合った侵入防止対策（**ベルト・バーコンベアーを金網で囲う、コンベアーの鶏舎出入口を金網で塞ぐ、隙間に金網を詰める、ダクトや飼料ラインと鶏舎壁面の隙間をパテで埋める**）を徹底しましょう！



H28年度 異常産関連アルボウイルスの動態調査結果

県内の未越夏子牛50頭を対象に毎年6月～11月に計4回行っている、蚊が媒介するアルボウイルス動態調査について、平成28年実施分の成績が明らかになりました。

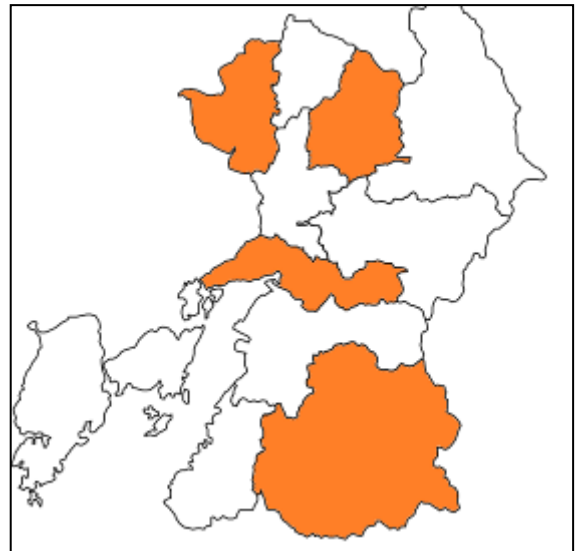
対象となるウイルスはアカバネ、アイノ、チュウザン、ピートン、シャモンダ、牛流行熱及びイバラキ病の7種類で、各地域のモニター農場に御協力をいただき実施しました。

今年度は昨年9月から11月にかけて、城南家保管内を含めた、県内各地で**イバラキウイルスの動きが確認されました。**

(九州山口各県でも、同様にイバラキウイルスの動きがみられた地域があります)

なお、熊本県ではアカバネ、アイノ、チュウザン、ピートン、シャモンダ及び牛流行熱ウイルスに動きはみられず、体形異常や中枢神経系の異常、発熱食欲不振を伴う症例の報告はありません。

幸い、現在のところイバラキウイルスの感染による成牛の嚙下障害、二次的に起こる流産等の発生症例も確認されていません。



イバラキウイルス抗体が確認された地域

ワクチン接種によるアルボウイルス異常産の予防について

アルボウイルスの多くは流行があっても、繁殖牛にワクチンを適切に接種することで異常産などの発生を防御できます。

動態調査では、毎年何らかのウイルスの動きが確認されており、予防接種を怠ると異常産がいつ発生してもおかしくない状況となります。

2月に入ると次の夏に向けた異常産ワクチン接種希望調査が行われ、3月下旬からは各市町村で予防接種が始まります。

子牛市場価格も堅調に推移しており、異常産等により子牛を失うと大きな損失となります、**予防接種の申し込みはくれぐれもお忘れなく！**



対象 妊娠牛および年内種付け予定牛

接種時期 3月～6月

接種回数 初めて接種する牛は4週間隔で2回、前年に接種している牛は1回

※ 前年に接種していない場合は、経産牛でも2回する必要があります

詳しくは**家畜保健衛生所**または**城南地区家畜自衛防疫促進協議会 (28-3234)** まで

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	中国	11月23日	豚	O型
	ロシア	11月27日	牛・豚	O型
		12月14日	牛・豚・羊/めん羊	O型
高病原性 鳥インフルエンザ	韓国	11月16日~12月24日	家きん	H5N6
	台湾	11月24日~12月19日	鶏	H5N8
	ロシア	12月2日、12月8日	家きん	H5N8

1月4日現在

新年あけましておめでとうございます！



旧年中は家畜保健衛生業務への御理解・御協力を賜り、誠にありがとうございました。

県内での高病原性鳥インフルエンザ発生で、あわただしい年末年始となってしまいました。まだまだ油断できない状況が続きますが、今年も11名のスタッフ一丸となり、管内の伝染病予防や生産性向上、生産者のお役に立てるよう取り組んでまいりますので、よろしくをお願いします！

編集後記 (M.K)

県北の養鶏場におけるHPA I 発生により、非常に緊迫した年末となりました。発生農場の防疫作業に従事し、現地をつぶさに見ていると、「普段出来ているつもりでも手が行き届いてない部分がないか？」「衛生管理をより良くする方法はないか？」を常に考えておかないと、どこかに隙が生じるのかもしれないと感じました。養鶏はもちろんですが、養牛・養豚家の皆様も同じく、私自身も隙をつくらず油断せず、日々向上・日々精進の気持ちで日常を過ごして行きたいものです！